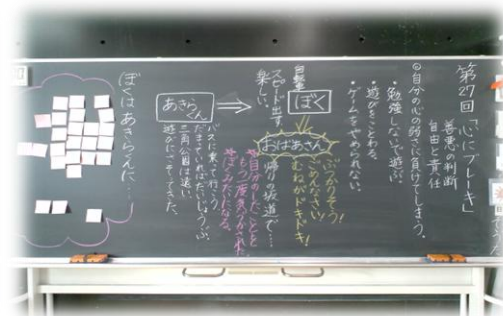


一小の児童を「心豊かで思いやりのある子」に

道徳科は「特別の教科 道徳」として2018年度（平成30年度）から教科化されました。子どもたち一人一人の良さを伸ばして成長を促す授業にするように、多様で効果的な道徳教育の指導方法に改善してきました。本校においては、学校教育目標「心豊かで思いやりのある子」に向けて、自主性と創造性に満ちた人間性豊かな児童の育成に取り組んでいます。

豊かな心を育み、耕す

本校では、道徳科や人権教育を通して一人一人の思いや考えを大切にしながら授業を進めています。育てる資質・能力は、表面的な「思考力、判断力、表現力」ではなく、その行為を何のために行おうとするのかという「向かう心」です。善悪の判断、親切・思いやり、規則の尊重、生命の尊さ等の22個（低学年は19, 中学年は20）の道徳的な内容項目をもとに、子どもたちが主体的に学習に参加し、自分の心と向き合える時間を作れるように授業を工夫しています。



2月10日（火）は、道徳授業地区公開講座を予定しています。それぞれの学年の児童の実態に沿った内容項目をテーマに、児童の心を揺さぶる授業の展開を目指していきます。保護者の皆様もぜひ一緒に考える機会にしてください。授業後にお子様と考えを共有し合っていたきたいと思います。

（道徳科・人権教育推進部 斉藤芳美 伊丹彩）

Let's enjoy English!

～関わり合う楽しさを実感し、主体的にコミュニケーションを図る姿を目指して～

3・4年生の外国語活動及び、5・6年生の外国語科では、以下の3つの力を高めるため、言語活動を通して、子どもたちが関わり合う楽しさを実感し、主体的にコミュニケーションを図れるよう、様々な取り組みを行っています。

①自分の思いや考えをすすんで伝え合おうとする力

まずは、相手に伝えようとする気持ちを大切にしています。ペアやグループでの簡単なやりとりから始め、友達やALTと英語で関わる場面を多く設けています。また、高学年では、単元の最後にパフォーマンステストとしてALTや担任、友達の前でスピーチをすることもあります。コミュニケーションは、相手に思いが伝わるのがとても重要です。話し方に強弱や身振り・表情をつけるなど、思いがより相手に伝わるためには、どうすればよいか考えながらスピーチに臨んでいます。相手に自分の思いが伝わる瞬間は、とても嬉しいものです。



②聞く・話す力の基礎

たくさん音を聞き、たくさん真似をして話すことを大切にしています。歌、チャンツを始め様々なアクティビティを通して、繰り返し英語に触れることで、ねらいとしている単語やフレーズを身に付けていきます。英語が好きな子はもちろん、最初は恥ずかしがっていた子たちも、楽しいアクティビティの中で自然と聞く・話す体験を積み重ねています。

③多様性を認め、世界に目を向ける力

外国語の学習を通して、言葉だけでなく文化や考え方の違いに触れ、世界への興味関心を広げられるよう、ICT機器を活用し、デジタル教材で写真や動画など世界の様子に触れる機会を設けています。また、ALTとのスモールトークからも、外国の学校生活や行事などの情報を知ることができます。ALTのヒデキ先生から聞く話はとても興味深く、日本との共通点・差異点には、驚くことがたくさんあります。異文化ならではの違いを認め、相手を大切にすることを育てていきます。

今後とも、外国語活動・外国語科を通して子どもたちが関わり合う楽しさを実感し、主体的にコミュニケーションを図れるよう、ご家庭でも話題にさせていただけると幸いです。

（外国語活動推進部 西川千尋 渡辺拓己）

デジタル活用のさらなる推進を

一人一台の学習用タブレット端末が導入されてから、数年が経ちました。現在では、調べたり、考えをまとめたり、友達と共有したりと、日々の学習活動の中で自然に活用されるようになってきました。今後も、これまで培ってきた学習の進め方を土台に、学びがより深められるデジタル活用を進めていきたいと考えています。

1月に、児童一人一人の学習用タブレット端末が新しいものに交換されます。それに伴い、新たな学習支援ツールを活用できるようになります。これは、これまでも授業の中で行ってきた「自分の考えをまとめる」「学習を振り返る」「グループで考えを共有する」「共同で一つの活動に取り組む」といった学習を、よりスムーズに行うことができるツールです。個人でじっくり考える学びと、友達と関わり合いながら進める協働的な学びを、これまで以上に行き来しやすくなり、学習の深まりや広がりが一層期待できます。さらに、児童一人一人の苦手さに応じた問題を提示できるAIドリルの活用も予定しています。個別最適な学びの環境が整うことで、学習内容のさらなる定着に繋がっていきます。これまで活用してきたツールやアプリとも組み合わせながら、より効果的なデジタル活用を進めていきます。



今回の端末更新と新たな学習ツールの導入は、これまで学校で積み重ねてきた学びを大切にしながら、より充実した学習に繋げていくためのものです。今後、端末の入れ替えに伴う様々なシステムの変更等で、ご家庭にもご協力をお願いする場面が生じることがあります。詳細については、改めてお知らせいたしますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

（GIGA・ICT教育推進部 勝海那緒 清水希巳 北島真理亜）

